

## かわさき区の宝物シート

宝物No.	かわさきさんのうさい <b>川崎山王祭</b>				
1-16					
エリア	中央地区 川崎駅前北	シーズン	夏		
		日時	8月1日から例祭(8月2日)以降最初の日曜日まで		
目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る <input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input type="checkbox"/> その他				
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり <input checked="" type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input checked="" type="checkbox"/> にぎわい <input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input type="checkbox"/> 港めぐり <input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの <input type="checkbox"/> 人物				
					
				宮座式	
					
				「祭りの日」詩碑	

写真提供：稲毛神社

所在地	川崎区宮本町7-7	
問い合わせ	稲毛神社社務所	
TEL	044-222-4554	
FAX	044-245-2003	
E-mail	info@takemikatsuchi.net	
URL	http://takemikatsuchi.net/ (稲毛神社)	
交通	JR川崎駅・京急川崎駅より徒歩10分	

### 基礎情報

■毎年8月1日、2日から直後の日曜日にかけて盛大に行われる稲毛神社のお祭りで、中心となるのは2日に行われる例祭(社殿内の儀式)。同日には関東では珍しい『古式宮座式』(神奈川県民俗文化財)という儀式が行われる。

■最終日には『孔雀神輿』と『玉神神輿』の男女二基の神輿が23町内を練り歩く。構成は、神の結婚、懐妊、御子神の誕生という物語。

### 由来・エピソード

■稲毛神社は明治以前までは「山王社」と呼ばれていたため、例祭である山王祭にその名が残されている。江戸時代、山王祭は6月15日に行われており、その盛況ぶりから「東の祇園」と称され、街道名物のひとつとされていた。

■「古式宮座式」は、地方の神社に専任の神主がない場合、神事行事を氏子の代表者が行うもので、中世には多く見られた制度である。江戸時代になると、各神社に神職が置かれるようになり、宮座式は消えた。その中で稲毛神社の宮座式は、関東地方で現在でも残っている数少ない儀式である。一連の儀式は秘式となっており、一般には公開されていない。

■川崎の生んだ詩人・作詞家の佐藤惣之助は山王祭りをこよなく愛したといわれ、いくつかの歌や詩にも詠み込まれている。

祭りの日は佳き哉  
つねに恋しき幼き人の  
あえかに粧ひて  
茜する都の方より来る時なり・・・

『祭りの日』は幼い頃、山王祭りの日に横浜から遊びにくる親類の女の児への想いを綴った詩である。その幼い客こそ、後の花枝夫人である。惣之助夫妻生誕100年を記念し、『祭りの日』詩碑が昭和62年(1987)に川崎今昔会によって境内に建立された。

### 補足・その他

### 関連シート

- (1-13)稲毛神社
- (1-25)佐藤本陣跡・佐藤惣之助の碑
- (32-4)佐藤惣之助